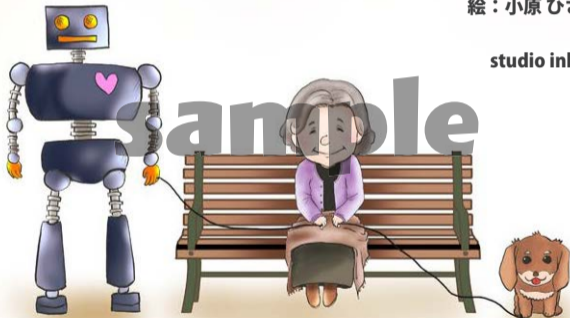


エトワルとフロッケの計画

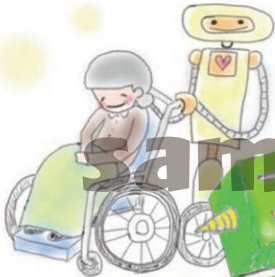
絵・作：よねむらこうた

絵：小原ひさほ

studio ink

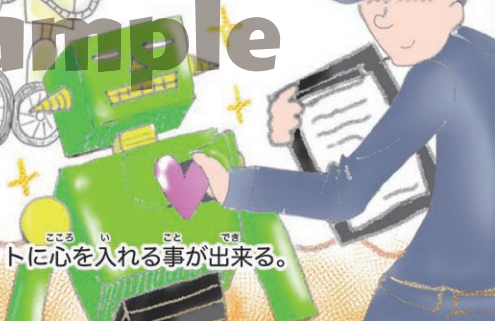


せかい
世界はロボットが
ろうじん せわ
老人の世話をすることになっていた。



sample

ちゅうもん う
注文を受けてからロボットに心を入れる事が出来る。
こころ い こと でき



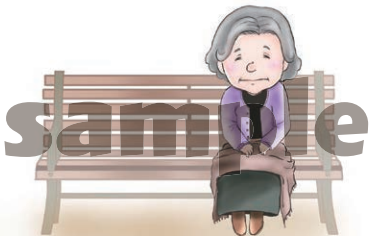
ひとりく
とある一人暮らしのおばあちゃんから注文が入った

おばあちゃんは生まれつき う 声 こえ が で 出ないため
文字で注文をした

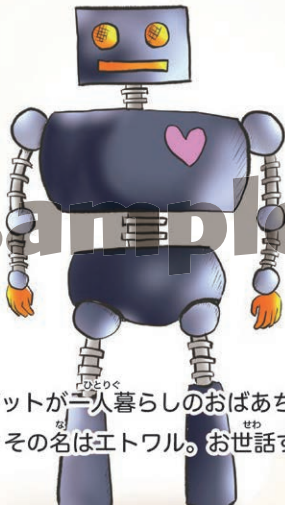
注文の内容はこう ないよう 書 か かれていた。

「私の愛した人の心を入れてください。」

その人の名前はエドワード・ワルツです。」



いつも隣となりに居いてくれたエドワードは
病びょうき気でおばあちゃんいのとなりから居いなくなってしまった。



そして、ロボットが一人暮らしのおばあちゃんの家いえに
送られた お その名はエトワル。お世話せわする為ために



いえ その家にはフロッケという犬もいた いぬ

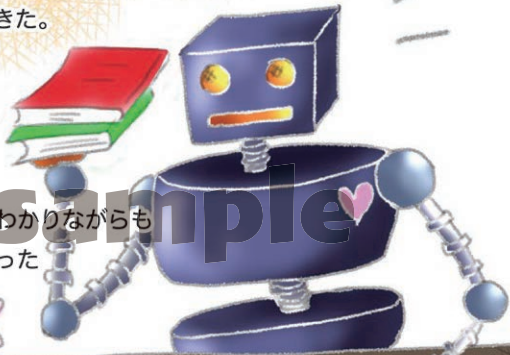
ことば はな
おばあちゃんは言葉が話せないけれど

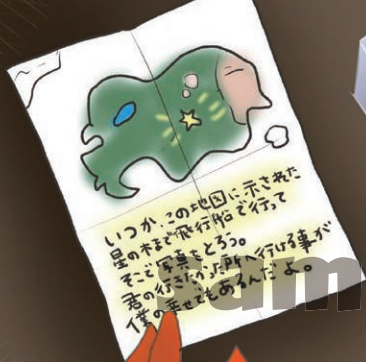


ひと こころ よ
エトワルは人の心を読むことができる
おな おも
きっとフロッケも同じなんだと思う

ある日エトワルはおばあちゃんの机を片付けていると
1枚の紙が出てきた。

見てはいけないとわかりながらも
ついつい見てしまった





そこに書かれていたのは地図だ。

その下にはエドワードの字でこう書かれていた

「いつか、この地図に示された星の木まで飛行船で行ってそこで写真を撮ろう。君の行きたかった場所へ行ける事が僕の幸せでもあるんだよ」

sample

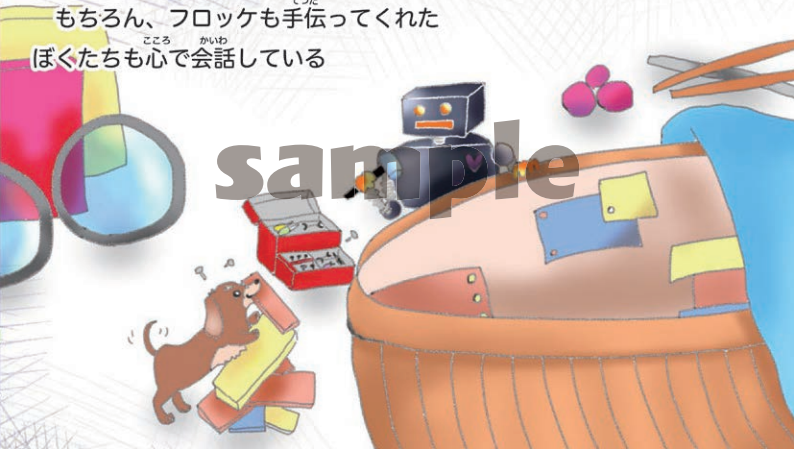
エドワードはつくっていたひこうせんをさいごまで
かんせいさせることができずにいなくなってしまった

エトワルとフロッケはある計画を立てた。その日から

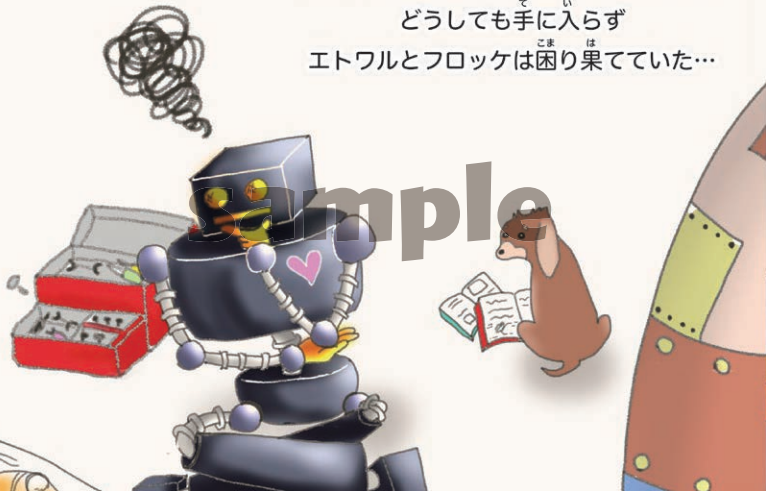
おばあちゃんには内緒で飛行船の続きを作った。

もちろん、フロッケも手伝ってくれた

ぼくたちも心で会話している



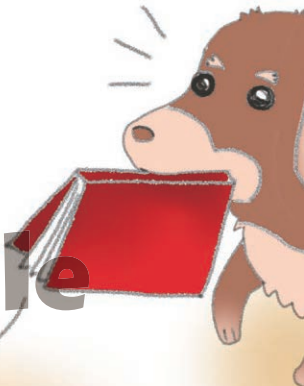
ひこうせん と ため さいご ぶひん
だけど、飛行船を飛ばす為の最後の部品が
どうしても手に入らず
エトワルとフロッケは困り果てていた…



とき ひこうせん つく かた い
その時、「飛行船の作り方」と言う
じ か かみ み
エドワードの字で書かれた紙を見つけた。

さいご ひこうせん と
最後に飛行船を飛ばすために
ひつよう か
必要なモノが書かれていた

sample



それは最新型のロボットの心のチップだった。
しかし、心のチップは高額で普通の人では手に入らない。



エドワードは手に入れられずにいたのかもしれない…

ある日、

いつものようにおばあちゃんの世話をしていると
「ガキン！プツン！」と音がして

エトワルは壊れた…。



おばあちゃんは悲しんだ。とっても悲しんだ。

他のロボットではダメなんだと。

sample

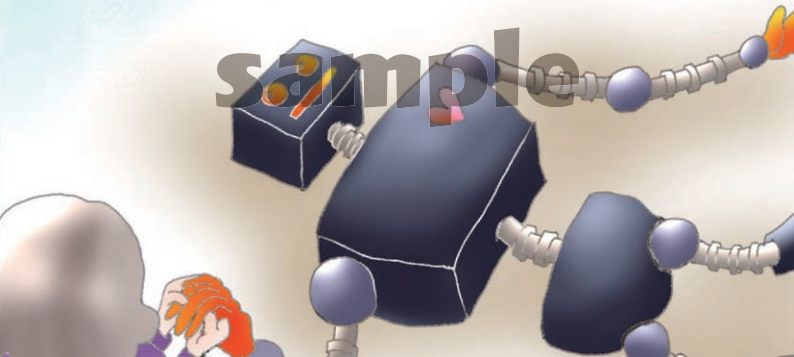
またエドワードが居なくなってしまう...

ほか
エトワルは他のロボットよりも繊細せんさいに出来できていた。

こころ やさ す
心が優やさし過すぎてしまっていた。

せかい
ロボットの世界せかいではエトワルは不良品ふりょうひんになってしまう。

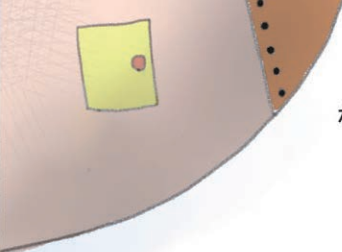
やさ こころ も す こわ
それは優やさしい心こころを持もち過すぎてしまおうと壊こわれてしまおうからだ。



その日の夜



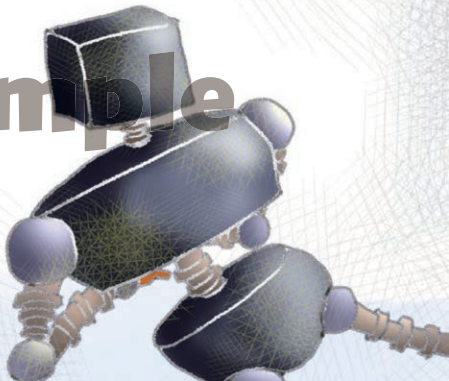
おばあちゃんがつかはね疲れ果てて寝てしまってから。

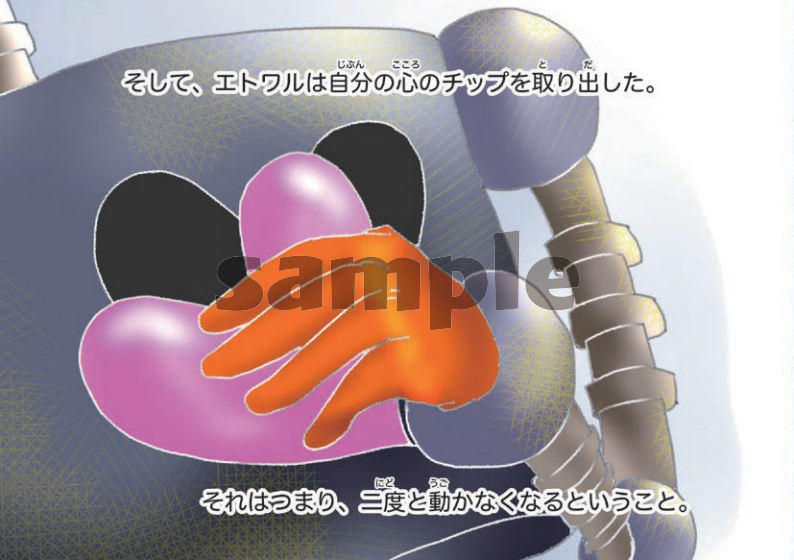


さいご ちから ふ しほ
エトワルは最後の力を振り絞り
ひこうせん たど つ
なんとか飛行船まで辿り着いた。

sample

エトワルはもうボロボロだ。





そして、エトワルは自分の心のチップを取り出した。

それはつまり、三度と動かなくなるということ。

フロッケは必死にやめてと吠えた。

sample

フロッケにとってもエトワルは
エドワードの代わりになっていたから。

だけどエトワルはその心のチップを飛行船に取り付けた。

エトワルは飛行船を飛ばすための
最期の部品の代わりになった。

sample

吠えることなんか一切しなかったフロッケが

ずっと吠え続けた。



sample

^{そら} ^{ほしそら}
空は星空でいっぱいだった。

^{やさ} ^す ^{こころ}
エトワルは優し過ぎる心があることで

ロボットでは不良品であっても、^{ふりょうひん} ^{うご}動かなくなることで

^{ふりょうひん}
おばあちゃんの不良品にはなりたくなかった。

つぎ ひ あさ
次の日の朝。

おばあちゃんはエトワルが壊れてしまい

こわ
げんき
元気がなくなっていた。



sample

そんなおばあちゃんの裾を
すそ
フロッケが引っ張り
ひ ば

ひこうせん ばしょ つ い
飛行船の場所まで連れて行った。

おばあちゃんはビックリした！

sample



そんなことはおかまいなしにフロッケは
な お す そ ひ ば ひこうせん の
尚も裾を引っ張り飛行船に乗せた。



おばあちゃんはたしかに^{かん}感じた。

ここにエトワルがいることを。

sample

エトワルのあの^{やさ}優しい^{ぬく}温もりがここにある。

^{なみだ}と
涙が止まらなかった。

その時^{とき}「…ありがとう」と声^{こえ}が聞^きこえた。


フロッケは慌^{あわ}てて振^ふり返^{かえ}ったが誰^{だれ}もいない。

sample

もう一度^{いちど}「…ありがとう」と聞^きこえた。

その声^{こえ}は確^{たし}かにおばあちゃん^{ばあちゃん}の方^{ほう}から聞^きこえた。

そして、弱^{よわ}い声^{こえ}で「幸^{しあわ}せを、ありがとう」



おどろ
フロッケは驚いた！

う
産まれてからおばあちゃんは
こえ だ びょうき
声が出せない病気だった

じんせい はじ こえ
おばあちゃんの人生で初めての声だった。

これからはずっと一緒だよ。
いっしょ

すがたかたち
姿形がなくなったって心はいつだって
こころ
あなたのとなりに居ます。

い 行こう。なみだ 涙を拭いて。ほし 星の木まで。き

にん ほし き み こと でき
4人は星の木を見る事が出来た。

やくそくどお みんな しゃしん と
そして、約束通り皆で写真を撮った。

sample

ほし き ひか つづ
星の木はずっと、ずーっと光り続けていた。



いしだえほん No.0166

エトワルとフロッケの計画

2019年8月2日 初版発行

絵・作 よねむら こうた
絵 小原 ひさほ

印刷・製本・発行 石田製本株式会社

〒063-0836 北海道札幌市西区発寒16条14丁目3-31
TEL 011-676-4520
<http://i-bb.co.jp/>

©2019 Kouta Yonemura / Hisaho Obara / Hideki Kubo / Ishida Bookbinding

※本書の無断複製（コピー、スキャン、デジタル化等）並びに無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。

また、本書を代行業者などの第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。

落丁・乱丁はお取り替えいたしますので、弊社までご連絡ください。

ISBN978-4-909939-65-4

石田製本の直販サイト「いしだえほん」にて、
シリアスな物からシュールな物まで、楽しい絵本が続々発売中です！
<http://p-books.jp/ehons/>

ISBN978-4-909939-65-4
C8771 ¥1200E

定価：本体1,200円+税



9784909939654



1928771012000

